

授業実践報告

著作権という言葉は、小学生にとっては難しい。低学年では、道徳を中心に各教科、領域、日常生活の中で、「自分のつくったもの」「友達のとくったもの」を大切にする態度を養い、3年生から、「著作権」の指導を始めるカリキュラムを実践している。

「ぼく・わたしは、新聞記者」 3年生 実践報告

1. 活動のねらい

- ・積極的に情報を集め、自分なりに工夫して新聞を作ろうとする。
- ・身近な人からインタビューして情報を集め、割り付けを考えた新聞作りができる。
- ・インタビューする際のマナーを身につけると共に、情報提供者にお礼の気持ちをもつ。
- ・デジタルカメラを用いたりメモしたりすることを通して、記録しながらインタビューする
- ・実例や教師の説明、解説を通して、著作権について知る。

2. 時間配分と活動の流れ 全25時間扱い

本単元は、地域にあるみんなに伝えたい施設を調べ、紹介する学習である。子どもたちは自分で調べたい施設を決め、取材活動を行い、新聞にまとめていく。その過程で、インタビューを行うときのマナーを身につけたり、著作権という概念を学んだりする。

子どもは、調べたことを新聞にまとめる際に、有名なキャラクターを描いていたので、担任がその場面をとらえ、著作権という概念を著作権情報センターの冊子を用いて子どもに教え、その学習の後に「探しを行った。

第1時～第19時・・・課題を決める。

インタビューの仕方を知り、体験する。

新聞のまとめ方、割付を行う。

インタビューしたことを集計し、コンピュータでグラフを作る。

わかりやすい文章を書く。

第20時・・・下書きの段階でマンガのキャラクターをカットとしていよいよとするグループがあり、このタイミングを生かして、著作権について学習し、人の物を勝手にコピーしていけないことを知った上で、自分たちらしい新聞作りができるよう、立ち止まる。

第21～第25時・・・新聞を完成させ、新聞報告会を開く。



< 「探しをしよう！」 >



< 著作権について教えてあげるよ >